

● 巾着網(中部標本船)

- マイワシは、6月から9月に平年値を大きく上回る漁獲量であった(図1)。
- カタクチイワシは、2月から6月に平年値を上回る漁獲が見られたが、7月以降は平年値を下回った(図2)。

● 機船船びき網(南部標本組合)

- イワシシラスは、6月に平年値を上回る漁獲量であったが、他の月は平年並みか平年を下回る漁獲量であった(図3)。
- イカナゴは、平年を大きく下回る漁獲であった(図4)。

● サワラ流し網(南部標本組合)

- サワラは、4月・5月と7月・8月は平年値を上回る漁獲量であったが、9月から12月は平年を下回った(図5)。

● アナゴかご(中部標本組合)

- 2月から6月と8月・10月に漁獲したが、マアナゴは平年値を大きく下回る漁獲量であった(図6)。

● スズキ流網(中部標本組合)

- 6月から11月にかけて出漁したが、スズキは9月以外の月は、平年値以下の漁獲量であった(図7)。

● 小型底びき網

石桁網(中部標本組合)

- シタ類は、周年平年値を上回る漁獲量であった(図8)。
- マコガレイは、2月から4月に増加したが、平年値を上回ることなく、周年低調な漁獲であった(図9)。
- メイトガレイは、4月と11月は平年値を上回る漁獲量であったが、他の月は平年以下であった(図10)。
- ヒラメは、1月から3月と6月・10月は平年値を上回る漁獲であったが、他の月は平年並の漁獲量であった(図11)。
- オニオコゼは、1月から4月と12月に漁獲が多かった(図12)。
- マゴチは、周年平年値を上回る漁獲量であった(図13)。
- ネズッポ類(がっちょ)は、4月に平年値を上回る漁獲があった(図14)。
- キスは、周年平年値以下の漁獲であった(図15)。

図1

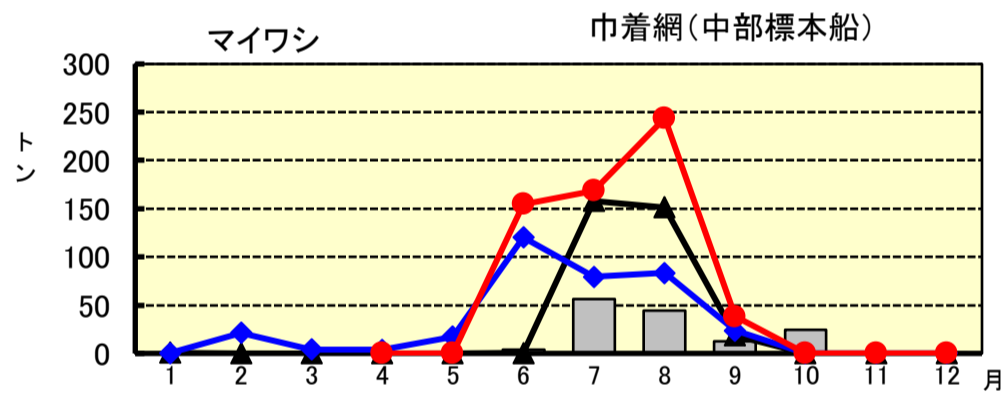


図2

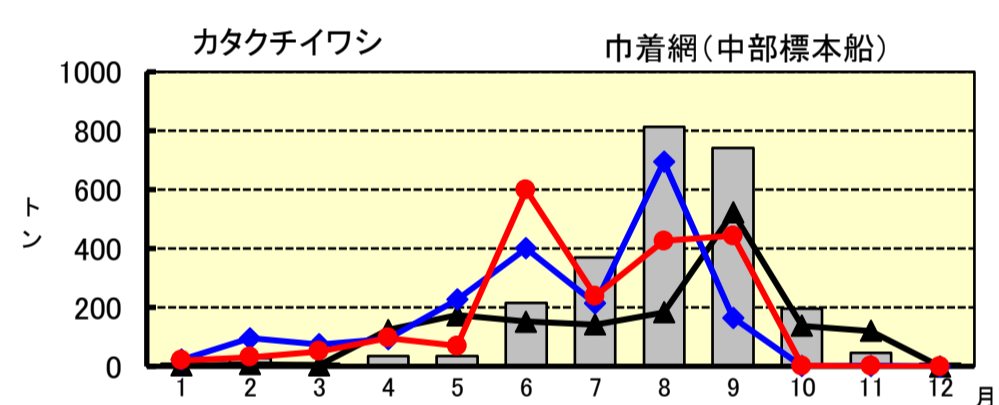


図3

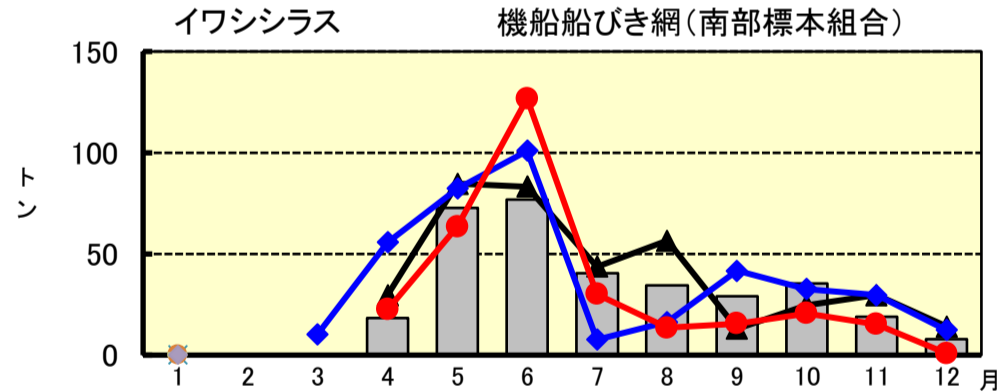


図4

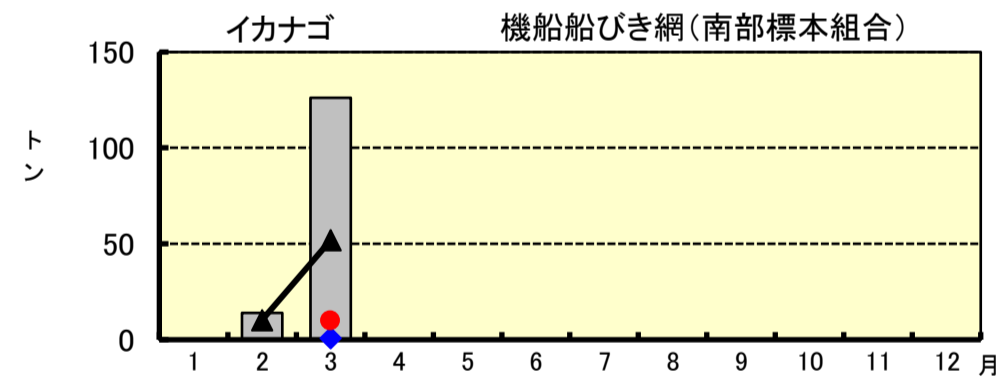


図5

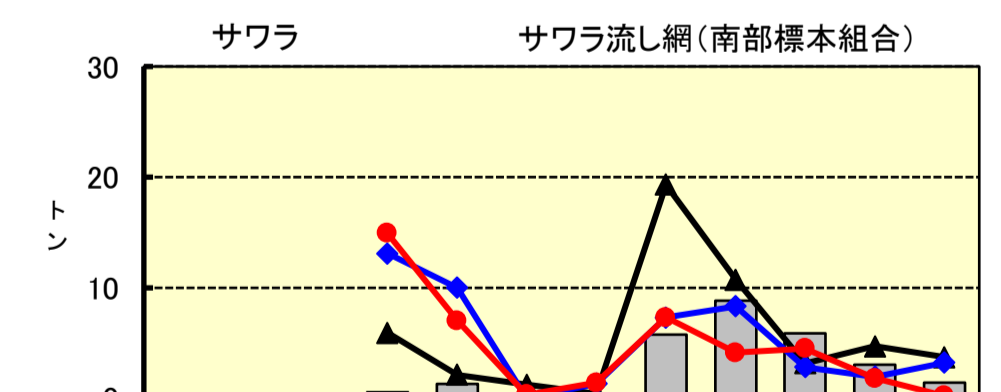


図6

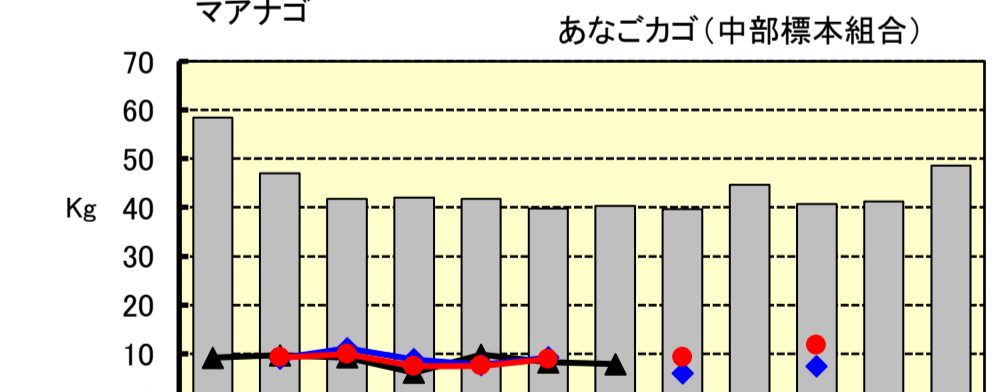


図7

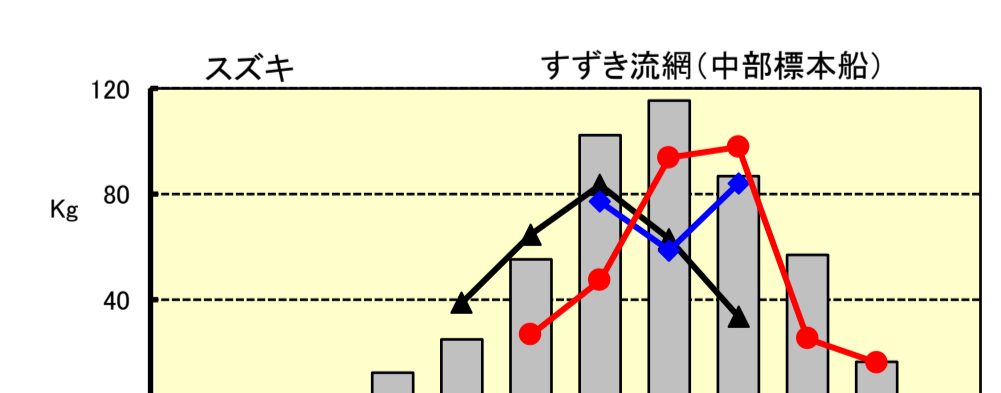
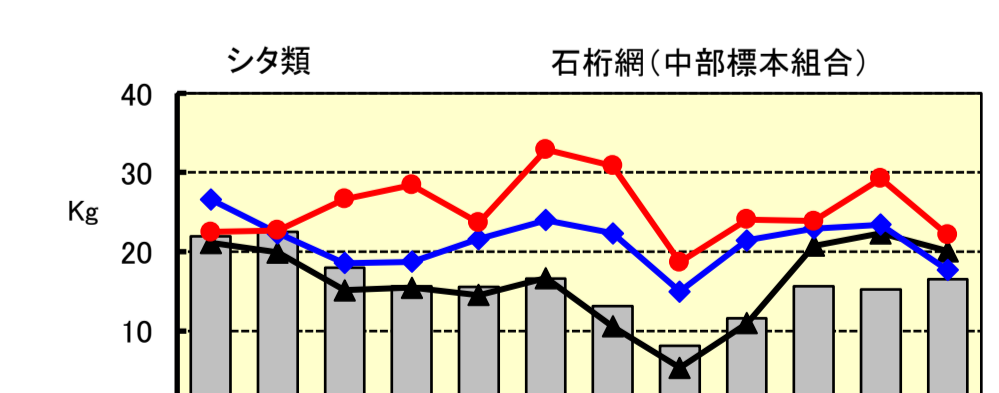


図8



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。注:図1、図2、図3、図4、図5は、月漁獲量(トン)を示す。

■ 平年値      ● 平成29年      ◆ 平成28年      ▲ 平成27年

図9

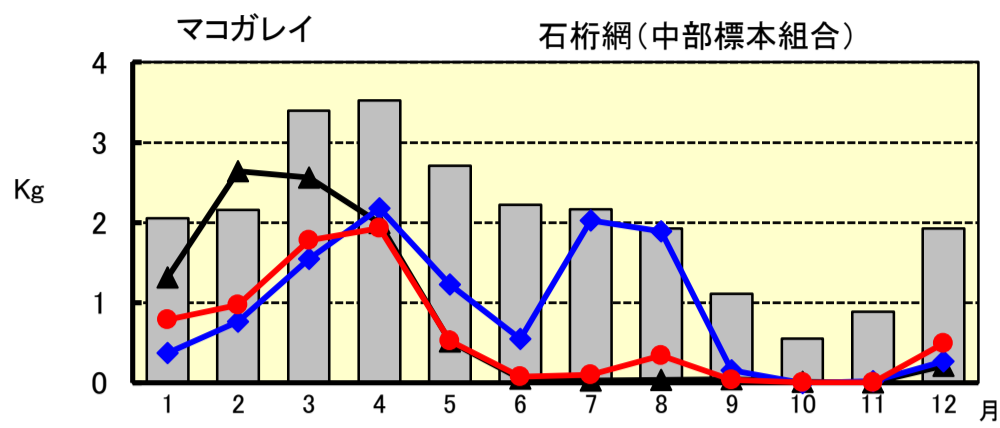


図10

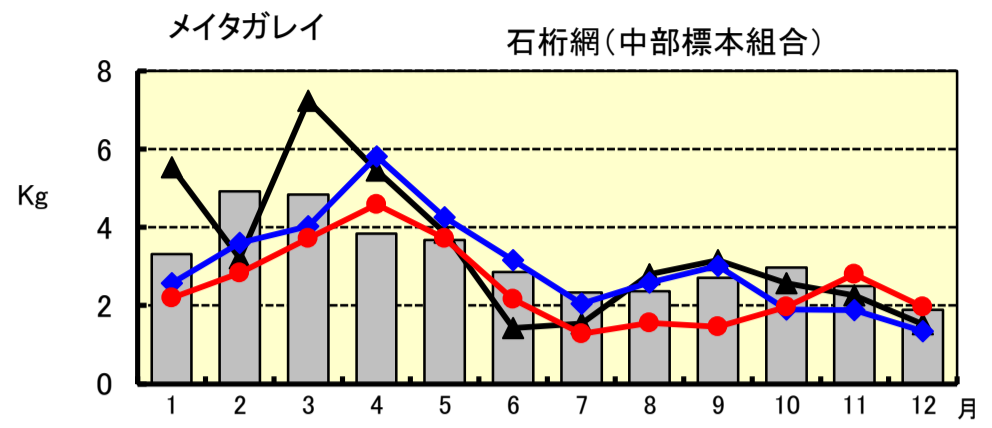


図11

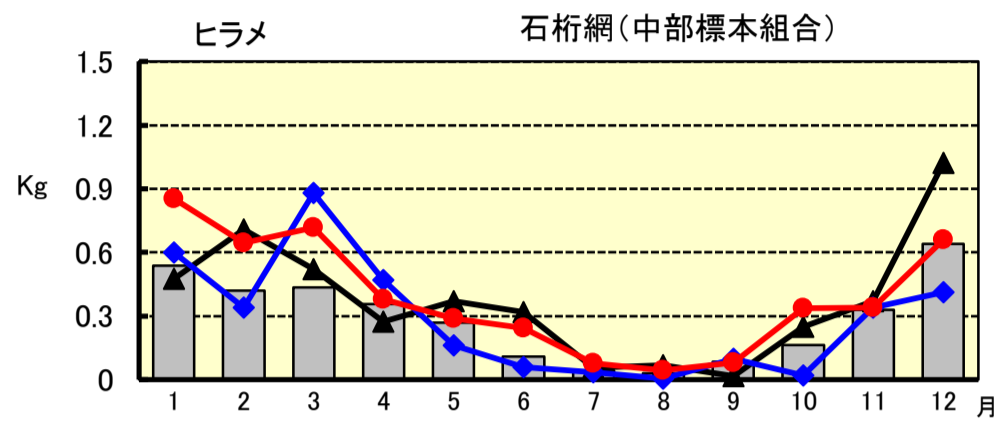


図12

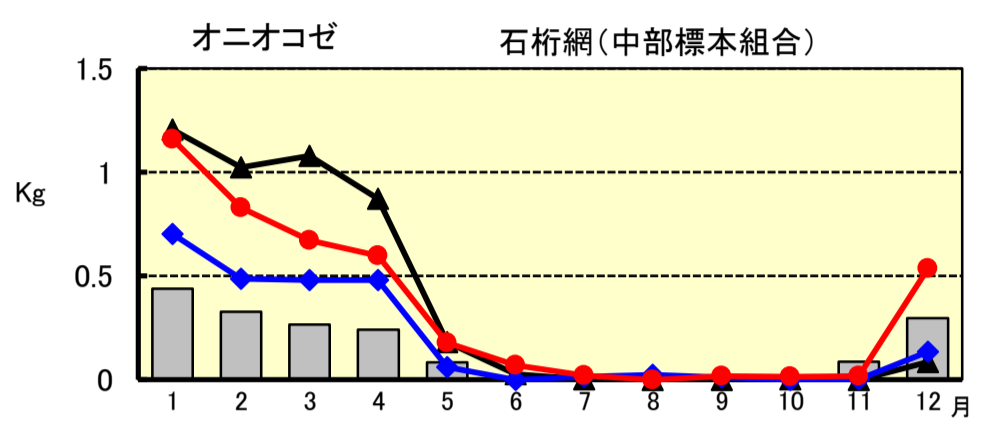


図13

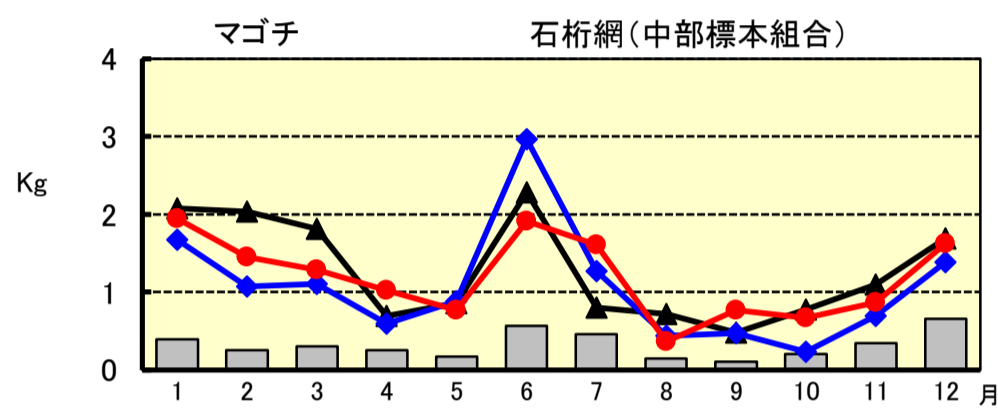


図14

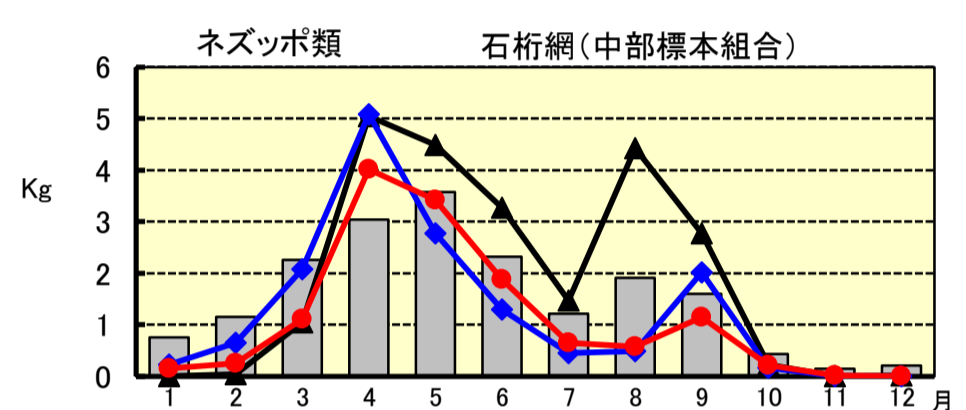


図15

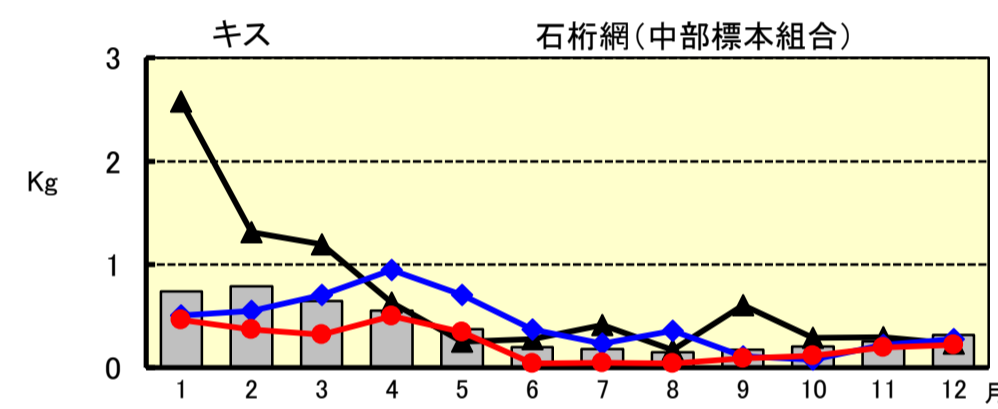


図16

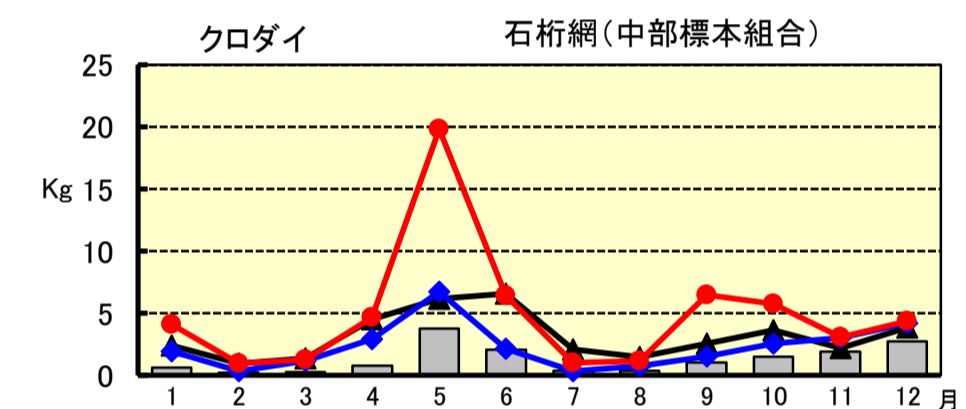


図17

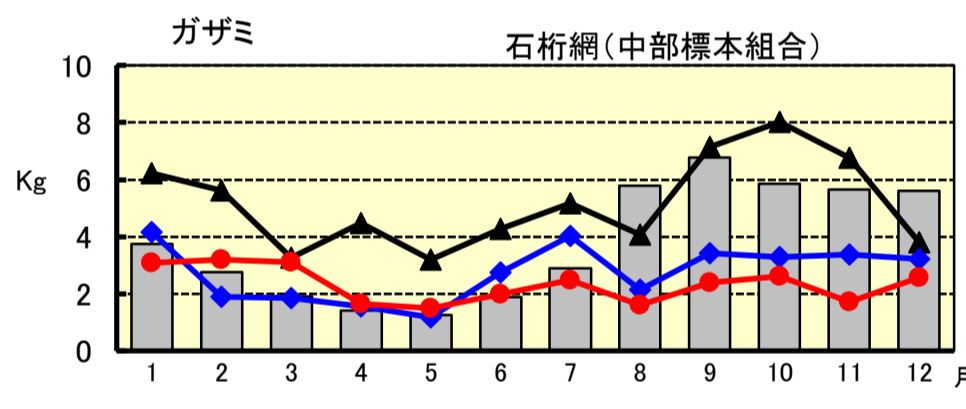


図18

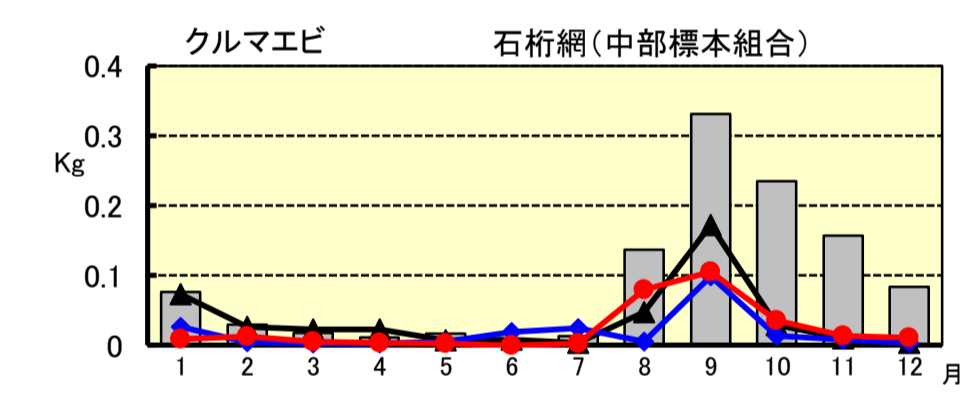


図19

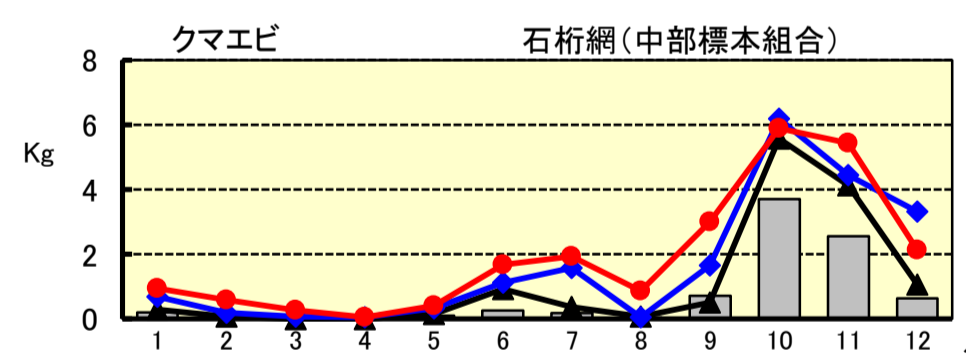


図20

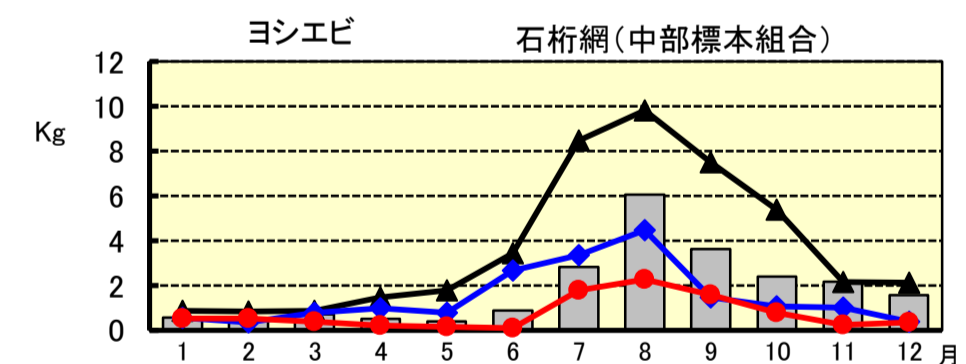


図21

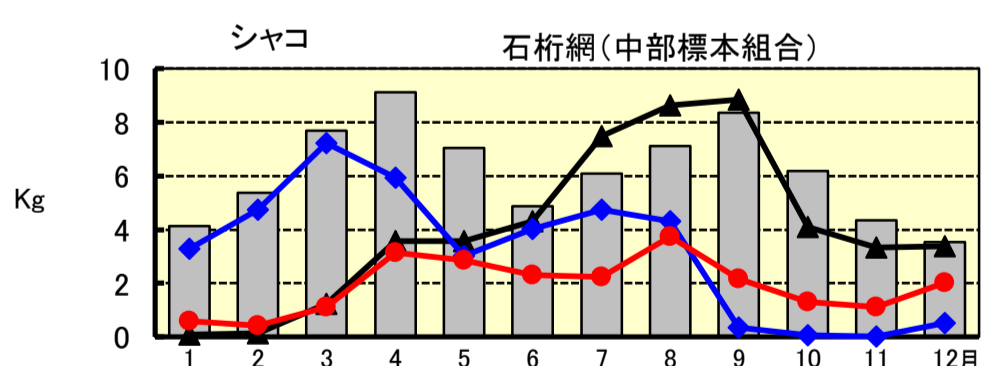


図22

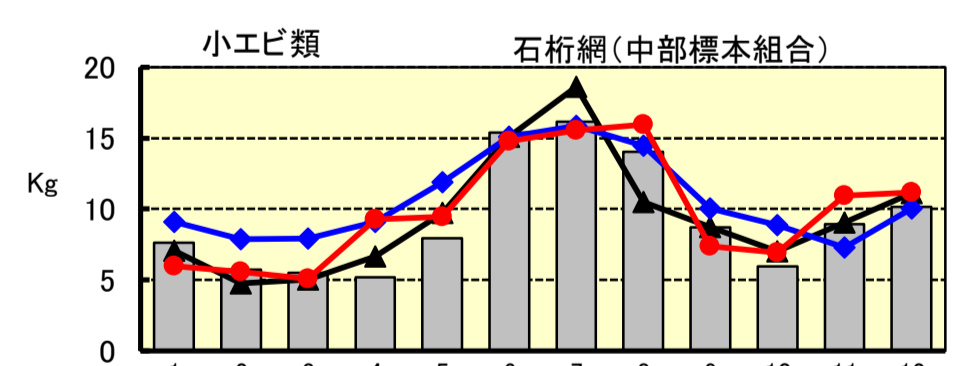


図23

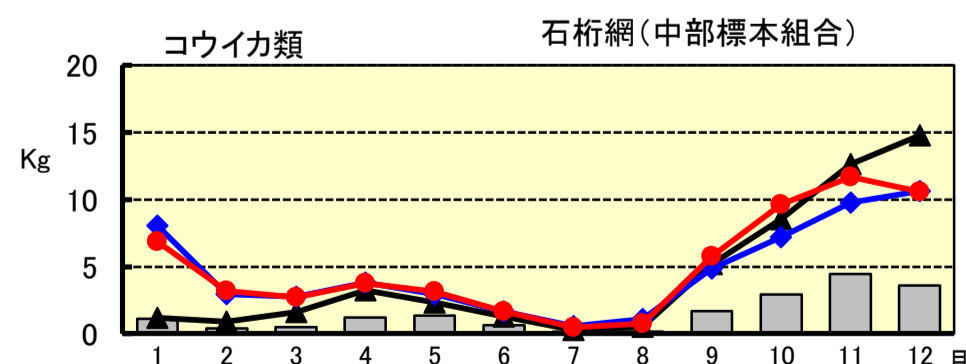
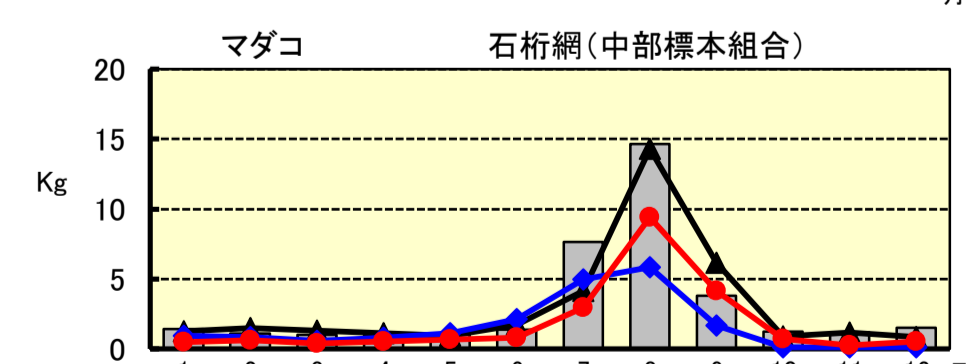


図24



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値

● 平成29年

◆ 平成28年

▲ 平成27年



- クロダイ(ちぬ)は、ほぼ周年平年値を上回る漁獲量であった(図16)。
- ガザミ(わたりがに)は、2月から5月を除き平年値を下回る漁獲量であった(図17)。
- クルマエビは、周年低調な漁獲であった(図18)。
- クマエビ(あしかか)は、4月以外は平年値を上回る漁獲量であった(図19)。
- ヨシエビ(しらさ)は、周年平年値以下の漁獲量であった(図20)。
- シャコは、周年平年値を下回る漁獲量であった(図21)。
- 小エビ類は、周年平年並か平年値を上回る漁獲量であった(図22)。
- コウイカ類は、7月・8月を除き、平年値を上回る漁獲量であった(図23)。
- マダコは、9月を除き、おおむね平年値を下回った(図24)。
- アカガイは、1月から3月に平年値を大きく上回ったが、貝毒により3月下旬から6月中旬まで出荷規制が続いた(図25)。
- トリガイは、2月と3月に漁獲量が急増したが、3月下旬に貝毒が検出され、6月中旬まで出荷規制が続いた(図26)。

図25

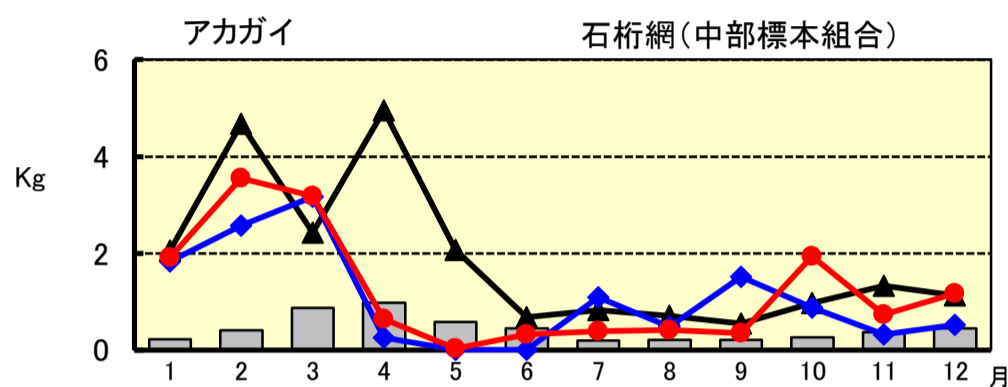
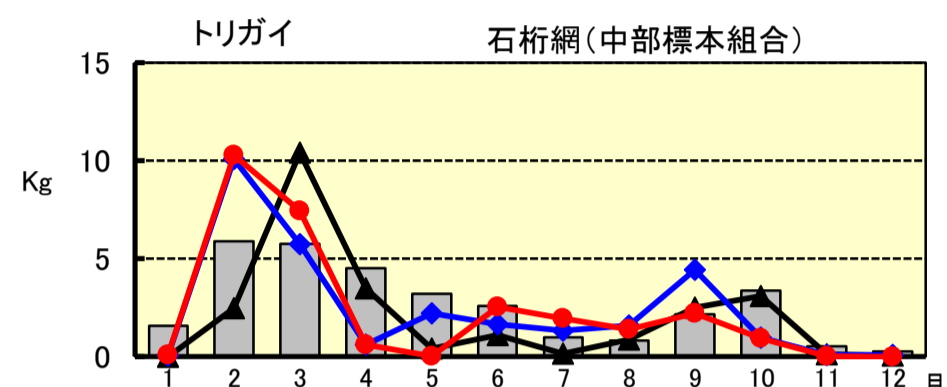


図26



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値    ● 平成29年    ◆ 平成28年    ▲ 平成27年

● 小型底びき網

板びき網

- 中部のマダイは、平年並か平年値を上回る漁獲量であった(図27)。
- 中部のマサバは、9月と10月に漁獲が急増し、平年値を大きく上回った(図28)。
- 中部のスズキは、周年平年値を下回る漁獲量であった(図29)。
- 中部のアジ類は、3月から5月にかけて平年値を上回ったが、他の月は平年を下回る漁獲量であった(図30)。
- 中部のクロダイは、5月を除き、平年値を上回る漁獲があった(図31)。
- 中部のハモは、5月から8月にかけて漁獲量が急増し平年値を大きく上回った(図32)。
- 中部のシログチは、周年平年値を下回る漁獲量であった(図33)。
- 中部のtachuo (タチウオ)は、1月から3月と12月は平年値を大きく上回る漁獲量であった(図34)。
- 中部のmana-gatso (マナガツオ)は、9月以降漁獲が急増し、平年値を上回った(図35)。
- 中部のibo-dai (イボダイ/うぼぜ)は、主な漁獲期の7月から10月に平年値を下回った(図36)。
- 中部のkawa-hagi (カワハギ)は、1月から4月と7月に平年値を上回る漁獲量となった(図37)。
- 中部のjindu-wika (ジンドウイカ/ひいか)は、6月と8月から10月に平年値を上回る漁獲量があった(図38)。
- 中部のkou-i-ka (コウイカ)は、1月から5月に平年値を上回る漁獲量であった(図39)。
- 中部のmada-ko (マダコ)は、盛期の8月に平年値を下回った(図40)。
- 南部のアジ類は、昨年に比べて漁獲が低調であった(図41)。
- 南部のハモは、4月以降平年値を上回る漁獲量であり、特に、8月に漁獲量が急増した(図42)。
- 南部のカワハギは、1月・2月に平年値を大きく上回る漁獲量であった(図43)。
- 南部のマナガツオは、周年平年値を上回る漁獲量であった(図44)。
- 南部のイボダイ(うぼぜ)は、7月から9月にかけて平年値を上回る漁獲量であった(図45)。
- 南部のコウイカ類は、6月から8月を除き、平年値を大きく上回る漁獲量であった(図46)。

図27

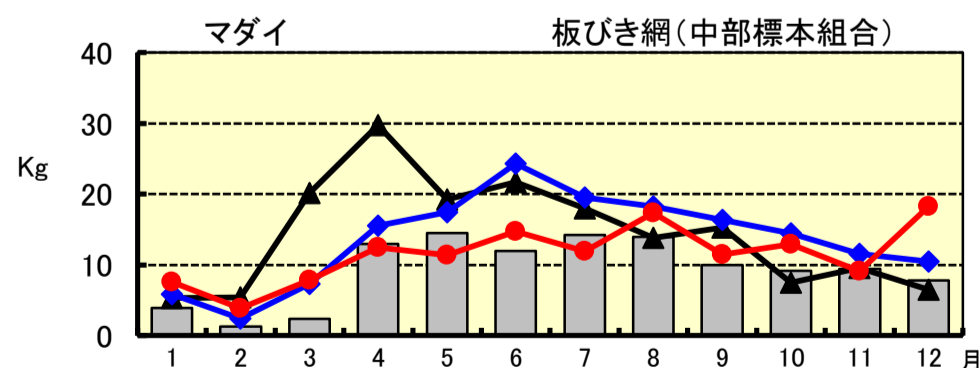


図28

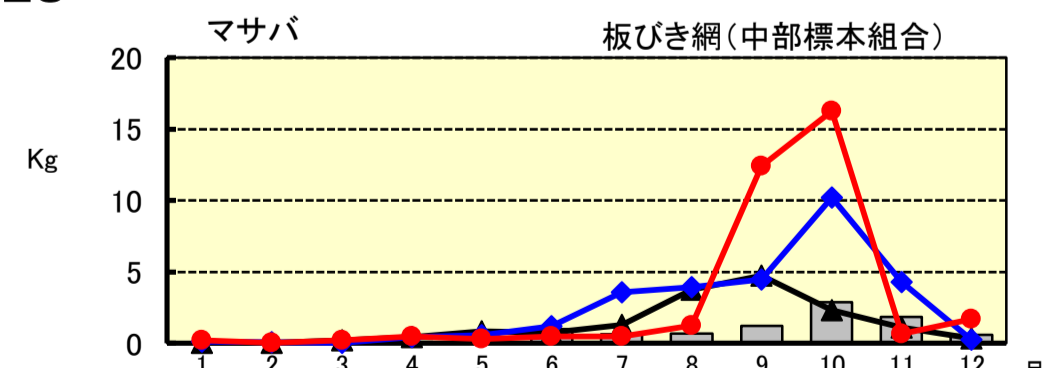


図29

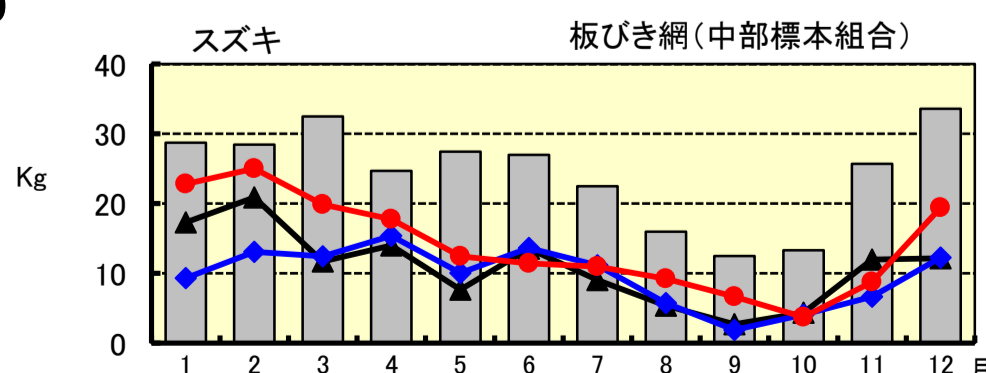
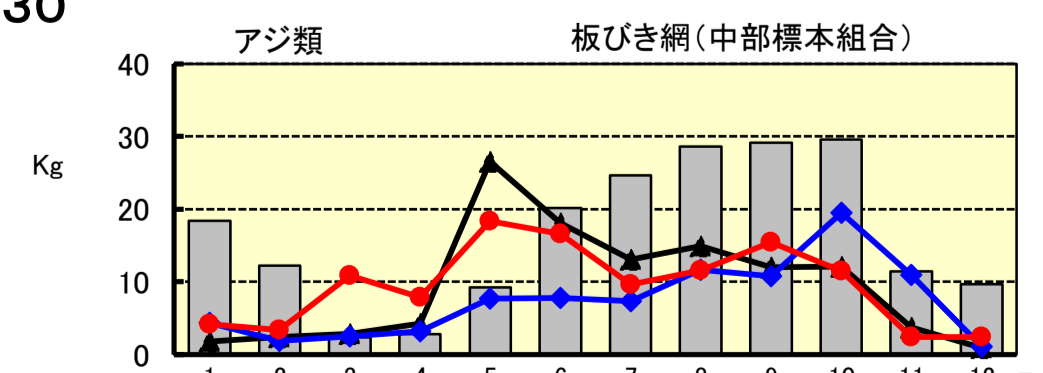


図30



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値    ● 平成29年    ◆ 平成28年    ▲ 平成27年

図31

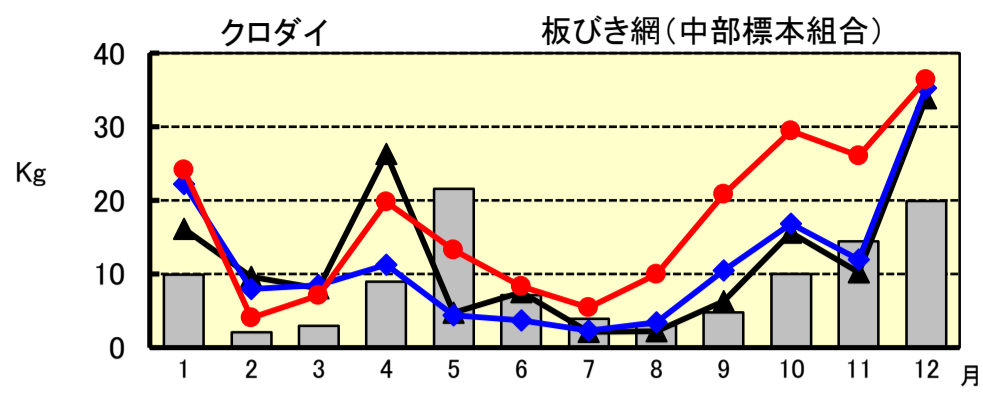


図32

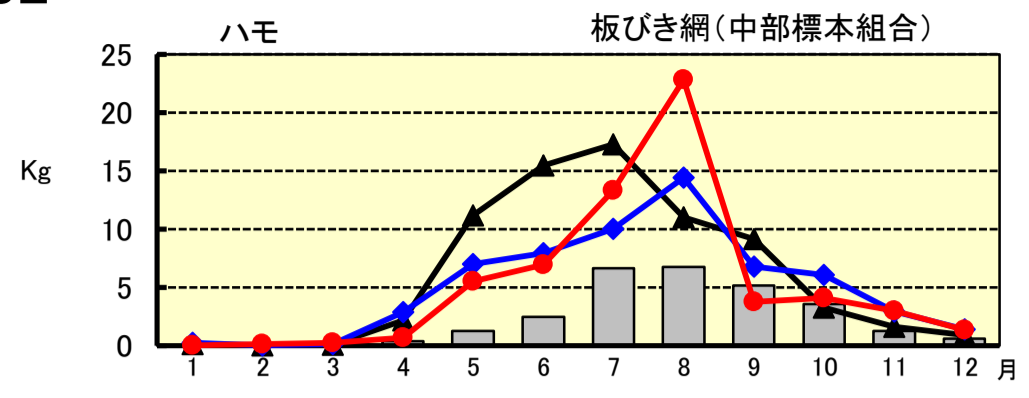


図33

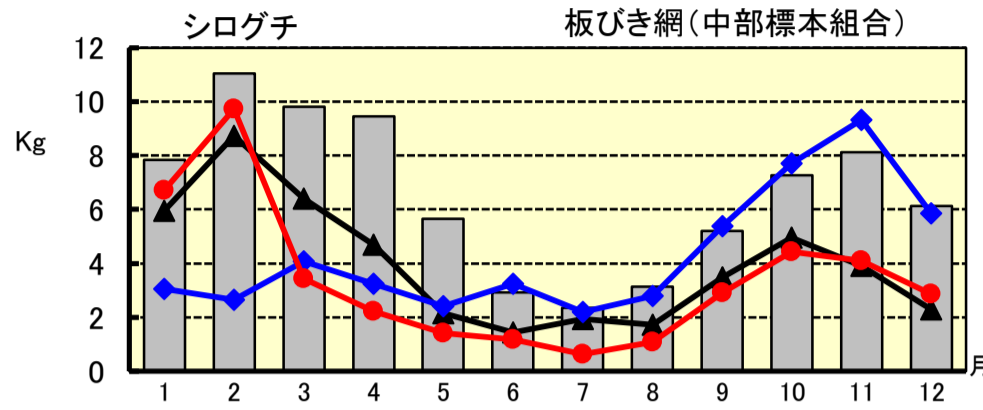


図34

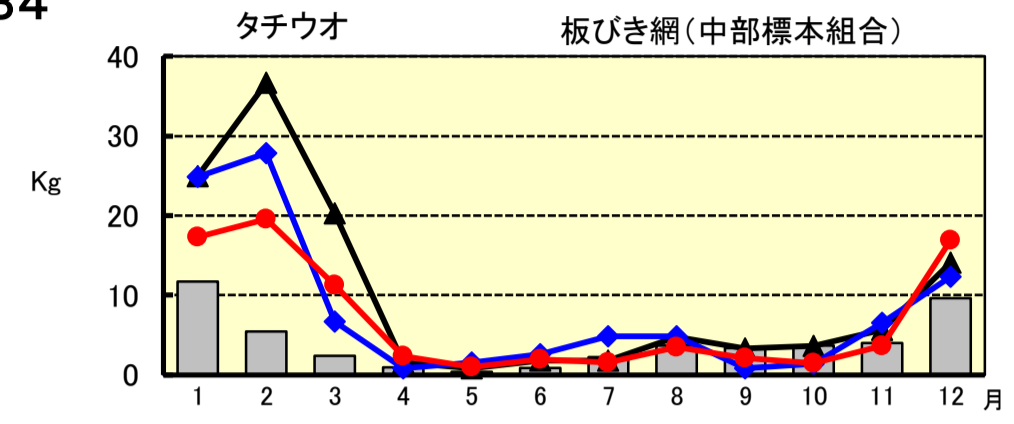


図35

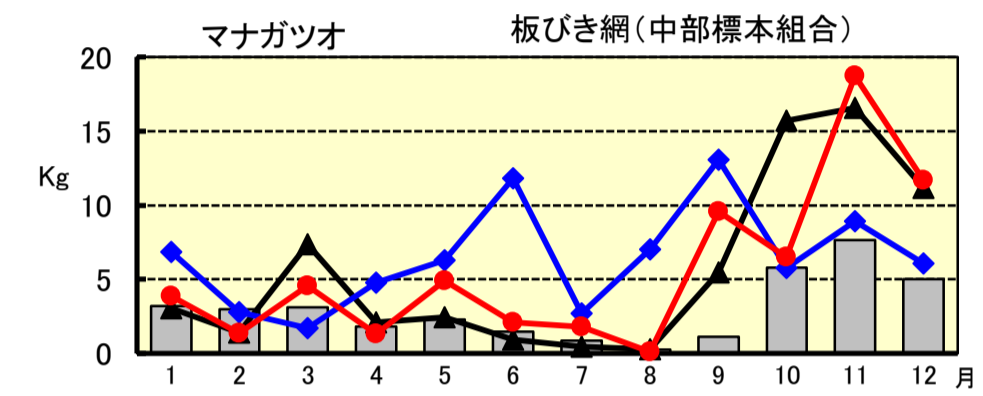


図36

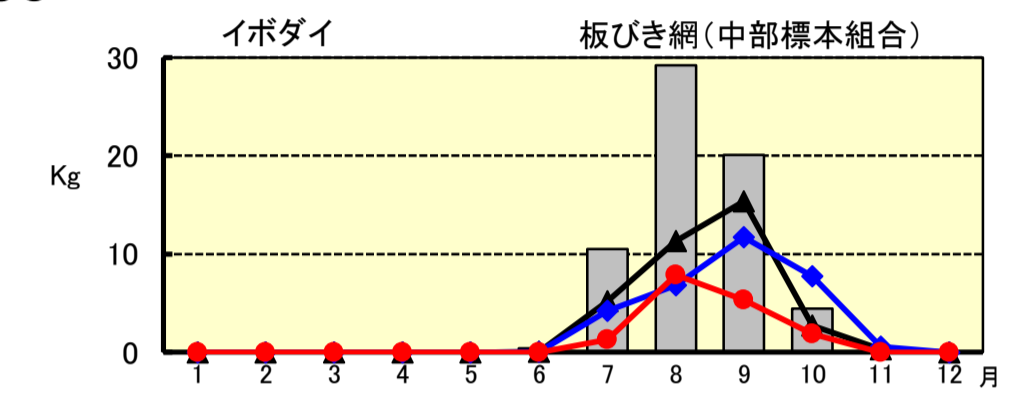


図37

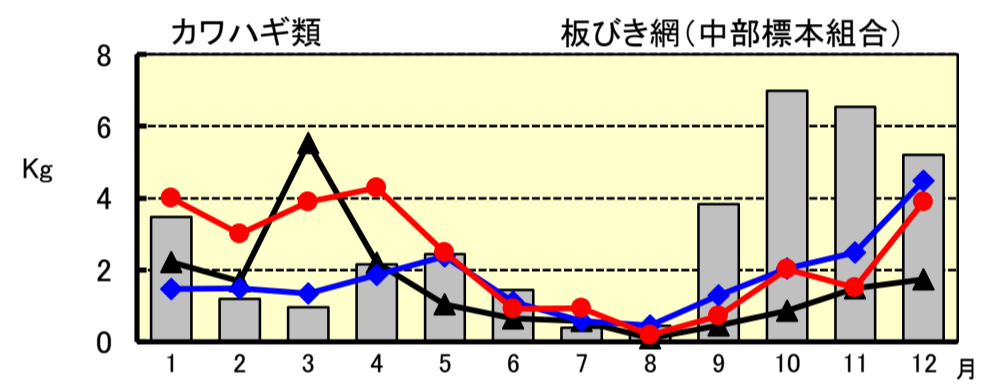


図38

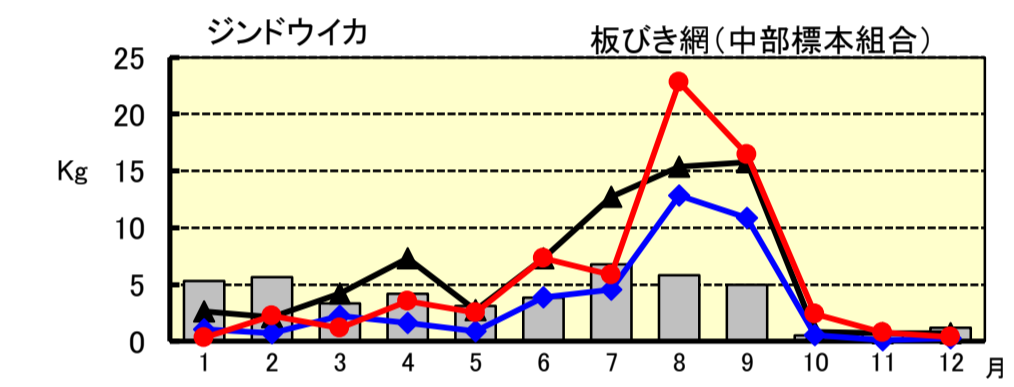


図39

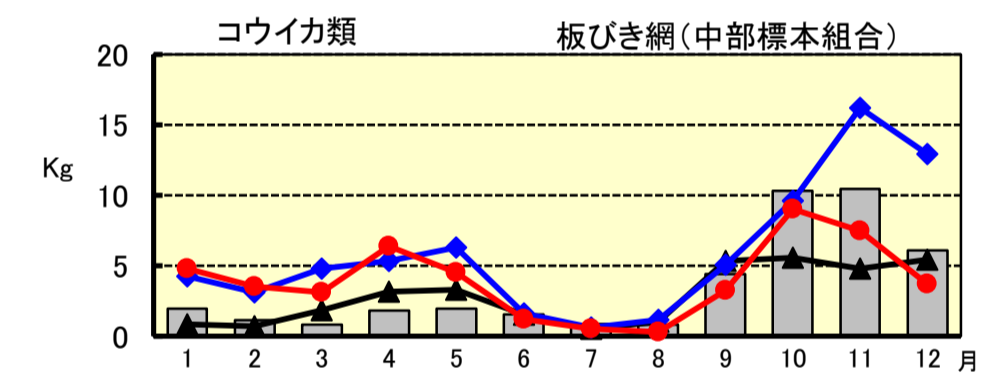


図40

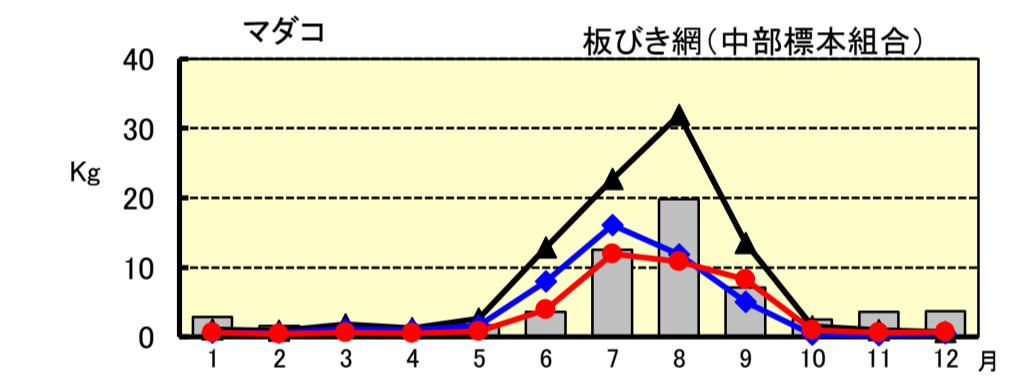


図41

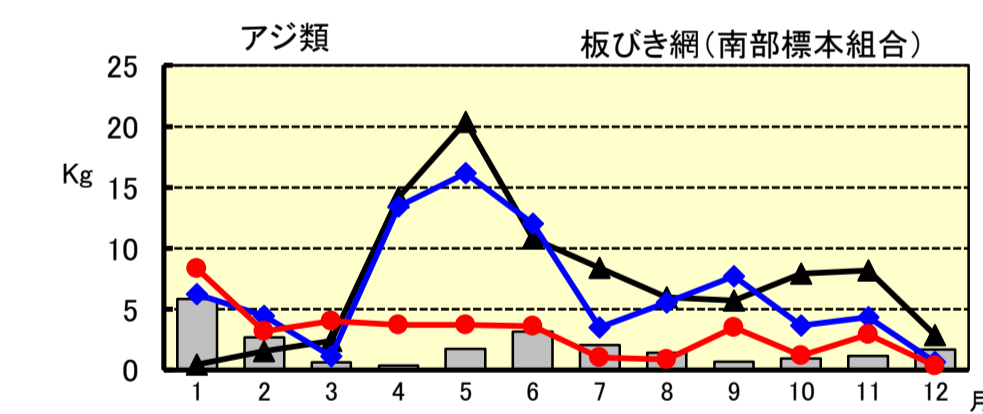


図42

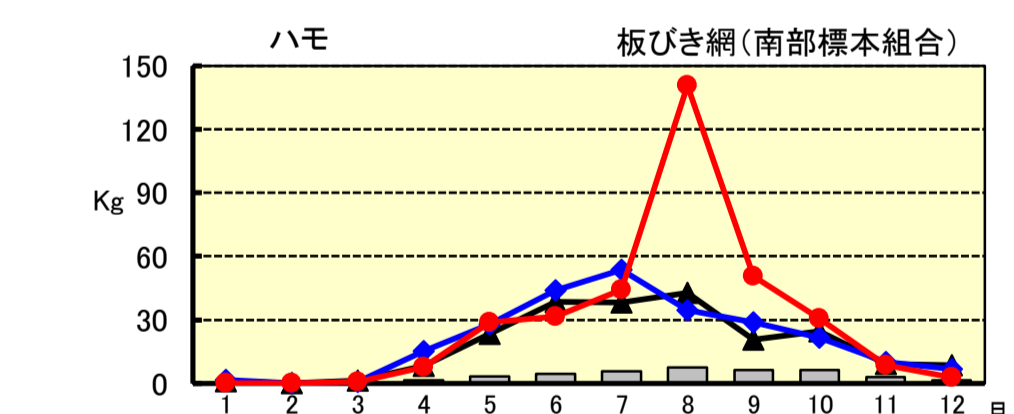


図43

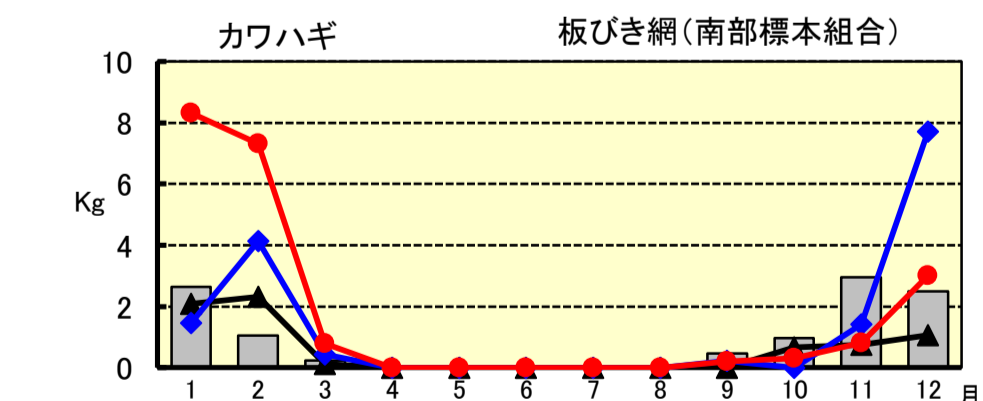


図44

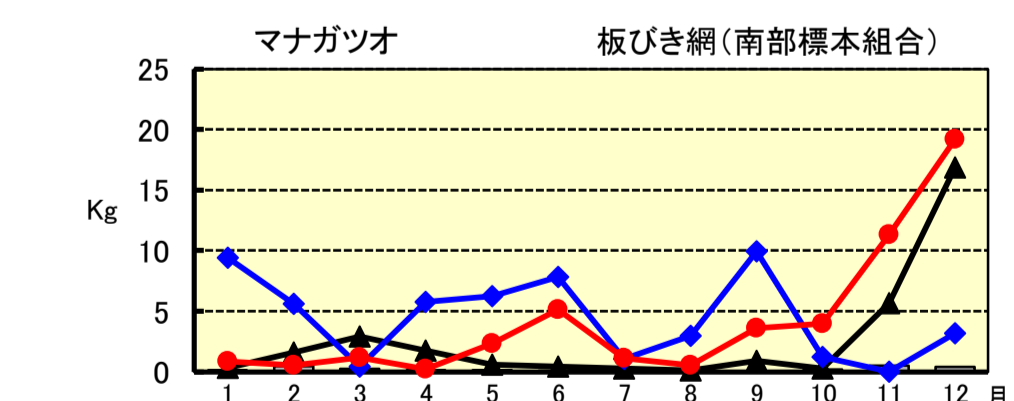


図45

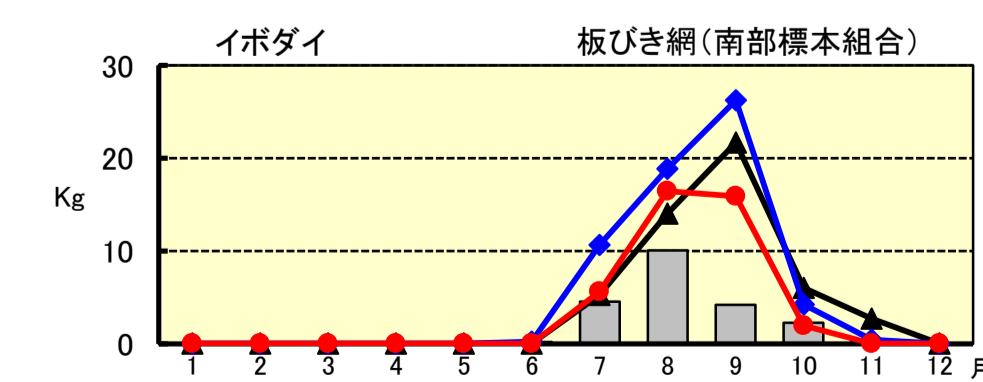
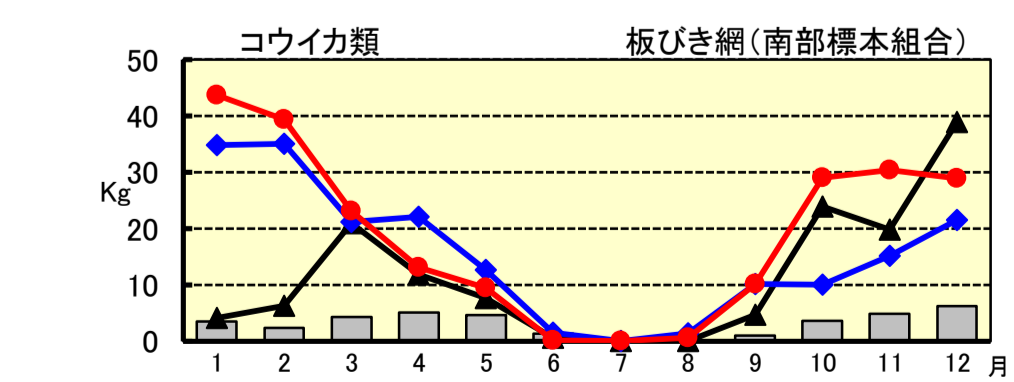


図46



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値    ● 平成29年    ◆ 平成28年    ▲ 平成27年